

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山商業高等学校・教諭・池田 優馬
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木) 1日間
- 3 調査研究課題 課題研究における実践に基づいた探究学習について
(探究学習における事業実践へのアプローチについて)
- 4 研修機関等 富山経済同友会
- 5 研修の概要 教師と企業人との交流

【報告】

本研修には勤務校で取り組んでいる探究的な学習活動の課題について、その解消に繋がる糸口を見つけたいという思いで参加させていただいた。教科「商業」の科目「課題研究」において、探究的な学習活動の実践に取り組んでいる。あくまでも教科「商業」での探究活動を前提としているため、ビジネスの側面を持った授業実践を行いたいと考えている。しかし、具体的にどのように授業実践を行っていけば良いか、日々手探りの状態であり、今現在も方法を模索している最中である。

課題と感じていることの1つに、生徒の身近に潜む困りごとを発見したり、その課題発見から新しいビジネスアイデアを企画したりする活動のなかで、実効性が高い課題の発見や新規ビジネスの企画に至ることができていないことがある。この課題について、(株)MGG代表取締役社長の牧田氏の講演の中にとっても参考になるお話があった。牧田氏いわく、人を動かすためには、仕組みを作ることが重要であるということだった。経営者の視点から、部下や従業員に自ら行動してもらうときは、その人が「やりたいこと」・「できること」・「やらないといけないこと」を明確にすることで、部下や従業員の自己効力感を高め、自ら行動する人材が生まれるとのことだった。授業の中で、生徒の自由な発想を促そうと、課題発見や企画立案を行う際に特に制限を設けず、自由な方法で生徒に考えさせていたが、その反対に生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を伸ばすためにこそ、しっかりとした仕組み作りが重要であることを牧田氏の講演から痛感した。

続いて、YKK(株)副社長黒部事業所長の小林氏の講演では、「自分らしく働く」という演題で、ご自身が歩んでこられた就業人生についてご講演いただいた。文化的な背景から女性であることが働く上で一つのハードルとなりながらも、ご自身の信念を曲げず、歩み続けてこられた姿にとっても感銘を受けた。小林氏の講演を通じて感じたことはマインドセットの重要性である。自分がこうありたいという姿や目指す目標地点を崩すことなく、強い信念をもって歩んでこられたからこそ、現在小林氏があるのだと感じた。高校生を指導していくなかでも、ありたい自分の姿を明確にイメージさせることで、探究学習だけにとどまらず、日々の学習やその他の諸活動においても主体的に取り組む姿勢を形成していくことに繋がると感じた。

最後に(株)ユーグレナ代表取締役社長の出雲氏の講演では、大学1年生のときにバングラデシュを訪れ、グラミン銀行をつくったムハマド・ユヌス氏との出会いがきっかけとなり、(株)ユーグレナが一部上場企業となるまでに至った経緯をお話いただいた。最も衝撃を受けたのが、自社商品を500社に営業を行いながらも、全て断られたということだ。しかし決して諦めることなく、営業を続け、501社目にて契約を勝ち取ったとのことだった。出雲氏はこの経験から「試行回数×独自技術＝ベンチャー魂」という公式を生み出され、結果に結びつけるために真に必要なことは、特別な才能や知識ではなく、挑戦し情熱を伝え続けることであると述べられていた。成功に至らなくても挑戦を止めず、行動し続けるベンチャー魂こそが私の授業実践に決定的に欠けていることに気づかされた。

本研修に参加させていただいたことで、今後の探究的な学習活動の授業実践について、多くのヒントをいただいた。御三方の講演を通じて、「仕組みづくり」・「マインドセット」・「ベンチャー魂」の3点を日々の授業実践のなかに落とし込むことで、私が目指す教科「商業」でのビジネスの側面を存分に生かした探究学習の実現に大きく近づくことができると感じた。勤務する富山商業高校では、生徒の実践的な活動に賛同いただける企業や人々が多くいる。その環境を有効に活用し、実践的な学習活動を通じて、生徒へ還元していきたい。

終わりに、この度の研修の機会を与えてくださった富山県教育委員会、富山経済同友会、講師の皆様、他ご支援いただいた全ての方々に深く感謝を申し上げます。